日本キリスト教団　**東金教会〔28〕**

2017年7月9日　聖霊降臨節第6主日礼拝

年度目標　《神と共に闘う信仰者》

聖　句　しっかりと立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。　エフェソ書6章13節

【礼拝式次第】

司式	安延
奏楽	中村
受付	鈴木
案内	寺内
名札係	岡村
礼拝感謝祈祷	石丸
〃　〃	児保

前奏		中村
讃美歌	54	一同
使徒信条	566	〃
交読文	27	司・会衆
主の祈り	564	一同
聖書	ローマ書 12：1～8	司会者
祈祷		安延
新聖歌	38	一同
み言葉の伝え 「役割を戴いて」		中村征一郎
讃美歌	494	一同
献金		
礼拝感謝		石丸
〃　〃		児保
報告		安延
頌栄	541	一同
祝祷（派遣）		中村征一郎
後奏	新聖歌58	聖歌隊

【集会案内】

聖書研究祈祷会	7月12日(水)午後7時半
早天祈祷会	月-金7時(除祭日)メーヤー館
聖歌練習	本日礼拝後
定期長老会	本日礼拝後
ＣＳ教師会	本日長老会後
聖書輪読会	7月16日(日)9:50-10:10
礼拝準備祈祷会	7月16日(日)10:25-10:30

【報告】

☆次週７月１６日は朴　　牧師が講壇をお守りします。又、７月３０日は梅田　　先生に講壇をお守り戴きます。祈りの内にお覚え下さい。

☆「朱鷺が峯」の原稿を募集しております。今回は「朴　　牧師就任特集号」としての発刊であり、先生のご就任に対するお祝いや希望、あるいはこれからの東金教会についてのご意見等が原稿の中心です。もちろんこれ以外の原稿も大歓迎です。宜しくお願い致します。

☆7月17日(月・海の日)午前１０時よりメーヤー館にて「東総分区信徒の交わり」を開催します。今年はルターによる宗教改革５００年を覚え、当時の讃美歌を讃美しつつ、1500年代以降の教会と讃美歌の関わり等を齋藤　　姉(　　　教会員)にご講演いただきます。説教は梅田　　先生が担当。お弁当持参。是非お出かけ下さい。

※先週報告致しました６月献金報告中以下の方々のペンテコステ献金が抜けておりました。お詫びして訂正致します。

「岡村　　，安延　　、土屋　　、朴　　、
田中　　、笠木　　、梅田　　・　　」

【定期長老会報告】

日時…2017.4.9　場所…教会事務室

出席…中村牧師　土肥　　(書記)　岡村　　土屋

議事…①総会資料の検討　②朴　　教師招聘状の検討　③教会・幼稚園行事(4/16イースター　4/23ＣＳ進級式　4/24千葉支区総会　4/29ＣＳハイキング　5/7総会資料作成　5/14教会総会　朴教師招聘の議題提示　ＣＳ母の日礼拝

【7月9日～7月15日の誕生者】

○ 勝田　兄　○深山　　兄　※おめでとうございます。主に繋がる枝々であることを覚え、皆で祈り合わせて参りましょう。

【分区・支区・教区報告】

○東総分区牧師会　7/11　10:30　於・長生教会

【先週集会状況】

集　会　名	男	女	計
主日礼拝(7/2)	17	41	58
聖研祈祷会(7/5)	3	4	7
聖書輪読会(7/2)	2	3	5
教会学校(7/2)	12	16	28

早天祈祷会			
日	男	女	計
7/3	1	3	4
7/4	1	2	3
7/5	1	2	3
7/6	1	2	3
7/7	1	2	3

主日礼拝献金(7/2)……29,000円
教会学校献金(7/2)……8,800円

【今日のメッセージ】

題［役割をいただいて］

聖　書　ローマ書１２：１～８

1.信仰における三つの過程

2.信仰の業としての行為

3.教会の形成

【次週(7月16日)礼拝案内】

題　［裁きではなく祈りを］
聖　書　歴代誌下６；１７～２１
交読文　２８
讃美歌　５８番　１６８番　３１４番

【次週(７月１６日)礼拝当番者】

御言葉の伝え	朴貞蓮
司式者	土屋春美
奏楽者	中里美穂子
受付者	澤本千慧
案内者	藤本晴枝
名札当番	足立照光
礼拝感謝祈祷	宮中正信
〃　〃	王万晶
ｃｓお話し	岡部秀子
会堂清掃者	武田吉弘
〃　〃	
花係	猪野君江
看板書き	土肥和江

【聖書から】

福音について言えば、イスラエル人は、あなたがたのために神に敵対していますが、神の選びについて言えば、先祖たちのお陰で神に愛されています。神の賜物と招きとは取り消されないものなのです。

ローマ一一章二二節

神の選びの民であるイスラエル人を神はどうされるのであろう？　これはパウロの大いなる疑問であった。イスラエル人としてうまれたパウロである。幼いときから「自分たちは神の選びの民である！」という意識の中で育てられて来たのである。そればかりでなく、長じてはその意識の下、律法の教師として本格的にラビとしての学びをしてきた者であったのである。つまりは彼の前半生はひたすら神の選びの民としての精進の日々であったのである。このような、生涯を賭けた生き方が神の力に触れ、ねじ曲げられ、イエス・キリストの福音に生きる者とされた時、彼は神の福音と旧き神の教えとの整合性に悩んだのである。それは彼の思想上の悩みであると同時に、ユダヤ人としての個人的な、そして民族的な悩みであった。ユダヤ人は神から捨てられたのか？、もはや神の民としての恵みは私たちには残されていないのか？　このような悩みの中で彼が得た結論、否、悩みの中で神によって与えられた啓示の内容、それはユダヤ人は捨てられた民ではない、と言うことであった。確かに今は、神の選びは異邦人に向けられている。慈しみは異邦人のものである。しかしこれは永遠ではない。ユダヤ人は回復される！、神の選びの恵みは変わることはない！これが彼の得た確信であった。そして思う。神の選びは変わらない！と言う慰めと恵みの言葉は、ひとりユダヤ人だけに当てはまるものではない。私たちにとっても、これはなぐさめの言葉である。わたしたちは旧約の民以上に偽りの民、頑な民、不信の民である。けれどもこのような民を神は選び、忍耐し、育てたもう神である。「神の賜物と招きとは取り消されない！」。この恵みの内に私たちも生きている。

【礼拝心得】

①礼拝は前奏から後奏までを守る。
②入堂したら私語を交さず、前奏までの時を黙想する。
③遅れてきた者は静かに入堂し、特に祈祷の時は入堂を控え、その場で共に祈りを守る。
④礼拝後は互いに挨拶を交し、交わりの時を持つ。
⑤各自週報棚を整理し、欠席者に週報を届ける。